



2016年度第3号
2017年7月31日
(月)

宮城県労働組合総連合女性部
発行責任者 永田 淳子
〒九八〇一〇〇二二
仙台市青葉区五橋一丁目5番13号
TEL 〇三一二二二一七〇〇二

第25回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの全国交流集会 in 静岡
社会変革するために多くの皆さんの参加で

東京大学大学院教育学研究科教授 本田由紀教授の
記念講演「貧困と格差にどう立ち向かうか」を聞いて

攻撃が厳しくなっている からこそ労働組合が必要

5月13〜14日、2017年全労連女性部単産・地方交流集会在東京・全労連会館で開催され、13単産・23都道府県から81名が参加しました。

1日目は、まず、長尾ゆり女性部長が「女性部って必要？女性部運動の歴史と活動に学ぼう」と題してお話しされました。「女性労働者の労働実態および男女平等・健康実態調査」、「妊娠・出産・育児に関する実態調査」は、

実施することに女性部の存在意義があり、その結果で働く女性の現状が見えてくるということです。女性労働者のたまたかの歴史の中で、日本で初めてのストライキが、戦前、しかも製紙工場女性達によって自発的に行われたことに驚きました。政策的に、運動のつくり方、進め方に女性の視点が求められているから、女性部の良さをいまこそ生かす時と

戦後の日本社会は、在学中に内定をとり、卒業後すぐに社会人となる、正社員や長期安定雇用が当たり前という時代でそれを見こして家族をつくる、父親が賃金を持ち帰り、母親が消費して家庭生活を豊かにし、子どもの教育にお金を使う、その子どもが労働者となる、このような一連の流れによって社会が「まわって」いた。現在は非正社員が主婦パートや学生アルバイト以外に拡大、家族を養うだけの十分な賃金を得られず家族形成が難しい、形成できても次世代を担う子どもに教育に注ぐ資源に格差が生じる、卒業後に低賃金で不安定な仕事に就かざるを得ない層が拡大し、社会が「まわらなくなつて」いる、しかし、政府はもともと少なかつた

「妊産・育児に
関する実態
調査」は、
教、全印総連、いわて労連

「集まること」
がたまたかになるという発
想は新鮮でした。
医労連、広島県労連、全
(女性部長
永田 淳子 国公)

「深刻化する子どもの貧困」
「懸命に働いても低収入の若年女性」
「生活保護受給者や『在日』の人々に向けられる憎悪」
「家族の中で
の悲惨な事件」等大変さ
まじい世の中になってきた、
原因を探し是正していか
なければならぬ、その人
たちの明日のことを考
え、手をこまねいては
られないと語る姿に
社会の現状に怒り、
早くなんとかしなければ
という先生の気持ち
がひしひしと伝わって
きました。
(事務局次長
高橋 京 東北大学)

炊き出しとお茶し一会

石巻&名取

6月25日(日)

石巻市南境仮設7団地

15組織200名の参加で、懐かしい歌声ボランティアもあり和やかな会となりました。

南境仮設団地は当初500世帯でしたが、現在100世帯足らずとなつてしまひ、住民の交流も少なくなり寂しくなつてきたとのこと。今回の会に向けて世話人の方が復興住宅へ転居した方にも広く声がけをして、懐かしい顔にも会えてよかつたとの声もありました。若い家族は、自宅の軒下にビニールシートとテーブルを出して参加していました。「つきたてのお餅は初めて食べました。おいしかったです。子どもたちも大喜び

です。」と話していました。

郊外にある仮設団地は駅から遠く、生活の利便性は悪いようでした。周辺にはコンビニこそあれ、スーパーなどの日用品店舗がなく、以前は生協への送迎バスがあつたがそれもなくなつてしまひ、買い物が大変不便になつたと年配の方がこぼしていました。

なんでも相談会では、弁護士への相談が今回は1件もなかったとのことでしたが、日常的な不便さは、震災直後よりもむしろ現在のほうがあるのかもしれない。空き家が目立ってきた仮設自会のコミュニティ再構築、高齢者世帯の生活援助の問題や健康や娯楽も含めた心のケアなどの課題が見えてきました。

(副部長

阿部文子 医労連)

7月15日(土)

名取市美田園第一仮設住宅

来場者は100名、スタッフ50名でした。

今回は、東京土建のみなさんが参加し、焼きそば、フランクフルト、カキ氷と活躍していただきました。別のテントでは、包丁研ぎ、専門の機械を持参し、あつというまにでき上がり、とても喜ばれました。そして、



30度を超える炎天下! スタッフのみなさん、ご苦労様でした

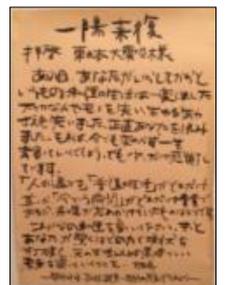
職人のみなさんが、その場で作成した手作りの椅子、30個が配られました。みなさんとても嬉しそうに持ち帰っていました。

仮設から出られ復興住宅

にこれから引越しをする方々が、広いお家に行くという事で、支援物資の食器類も喜ばれました。今までは、食器棚も置けないと敬遠していましたが、今回はたくさん持っていかれました。被災者のみなさんの状況が少しずつ変わつており、まだまだ支援が必要と実感しました。炎天下の中、

フラフラになりながらも宮城県国公共闘のみなさんと宮城一般の仲間が、餅つきをし、ふるまいました。毎回好評の玉こんに、そして暑い中欠かせないのが、みやぎ生協支部のドリンクコーナーでした。次回は、10月です!

追伸…集会所のトイレには、こんな貼紙がありました。



貼紙に目が止まりました

一陽来復

拝啓東日本大震災様

あの日あなたがいらしてからというものの私たちの生活は一変しました。

大切なモノを失い生きる気力さえも失いました。正直あなたを恨みました。

それは、今も変わらず一生背負っていくでしょう。でも少しでも感謝しています。

「人の温かさ」「普通の生活」がどれだけ尊いか、「今という瞬間」がどれだけ貴重であるか、

私たちが忘れかけていたものばかりです。これから私達を見ていてください。きつとあなたが驚くほどの力で現状を打破し、元の生活以上の素晴らしい未来を築いていくことを。

(事務局長

菅野和美 宮城一般)